

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870400280		
法人名	株式会社 アイアール		
事業所名	グループホーム ローズマリー		
所在地 (電話番号)	茨城県古河市古河514-1		(電話)0280-30-8338

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 23日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 11人, 非常勤 11人, 常勤換算	17人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造モルタル珪藻土和瓦葺 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

## (4)利用者の概要(4月23日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	100歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 啓山会 山中医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表、管理者の「両親の老後問題は避けて通れない」という思いから、福祉を考え立ち上げたホームは新興住宅地の一角に立地し、2階建ての明るい雰囲気近隣住民が散歩がてら立ち寄り、小学生がホームで飼っている犬を眺めにきたりする光景がある地域に開放したホームである。管理者、職員はホームの理念である『家族の心で』を大切にし日々ケアに取り組み、利用者は地域で自分らしい生活を過ごしている。地域、家族に対し介護相談窓口として行政との連携を密にとっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は『外部研修の内容について全職員に伝達できるよう工夫する』であったがカンファレンスで確認し研修後は職員に対して報告を行い研修内容を共有するように改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、各項目ごとに活発な意見交換の上、作成した。職員は外部、自己評価の意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	毎回20名程の運営推進会議のメンバーで3ヶ月ごとにホテルで開催している。会を重ねるごとに家族からも意見が出るようになり、会議内容は議事録に残しカンファレンスで職員に報告し今後のホームの運営に反映できるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議、家族会を開催し意見を聞くようにしている。家族来訪時には意見等大きくしているほか、入居時にアンケートを実施し、家族に対する意向の把握に対する配慮が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民や子供たちが気軽にホームに立ち寄り、利用者と一緒に楽しい一時を過ごしている。ボランティアや老人会との交流、他ホームとの連携を図っている。オカリナのボランティアの訪問がある。もちをついた時、近隣にお餅を配りホームに対する理解に努めたり、相談を受けることもある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で『自宅の雰囲気と自分の歴史』を理念とし、職員は『家族の心で』利用者の支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス、ミーティングなどで職員で話し合い、理念の実施にむけて日々取り組んでいる。職員は自分の家族の一員として介護にあたっている事が聞き取りからも伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民や子供が気軽に立ち寄り利用者と一緒に楽しい一時を過ごしている。地域のイベントの桃祭りに参加したり、老人会との交流、オカリナ演奏を楽しんでいる。お餅をついた時は近隣にお餅を配りホームに対する理解に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の改善点は研修内容を全職員で共有することであったが、すぐに職員会議を開催し改善に努めた。自己評価に関して、意義を全職員理解の上、3回のカンファレンスを開催し各項目ごとに全職員で意見を出し合い作成したことが職員の聞き取りからも伺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多数のメンバーで運営推進会議をホテルで開催し会議内容は議事録に残し全職員に伝達している。席上出た意見等はホーム運営に反映するように努めている。家族に対しては全員案内を出し参加を呼びかけ、当日欠席の家族に対しては会議内容を郵送にて知らせている。		

茨城県 グループホームローズマリー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加以外に行政窓口とは意見交換を行っている。地域包括、介護福祉課担当者との話し合いの場が多く今後も意見交換できるような関係作りに努めたいとのことであった。また、福祉学校の依頼により学生の研修の場として提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状況を話し、家族からは意見を聞くようにしているが、面会が少ない家族に対しては手紙で報告している。年4回のホーム便りを発行している。緊急時や必要に応じ電話連絡を行い内容を申し送り事項綴りノート、ケース記録に残している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に全家族の参加を呼びかけ、会議前の数分間が自然と家族の意見交換となり、ホームに対する思いや意見が聞ける様になっている。入居前に行うアンケートの実施から家族の意見や思いを吸い上げ日々のケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間は職員の異動は少なく利用者の混乱はない。職員に対しては個々の事情に合わせた勤務シフトを組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対し研修期間を設けている。段階に応じてダブルシフトにて再教育を開催している。外部研修は職員のレベルに合わせた研修が受講できるよう日勤扱いで交通費、受講料、食費は会社負担とし教育に取り組んでいる。受講後はカンファレンスで報告し全職員で共有している。講師をホームに招き勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議のメンバーの他グループホーム、デイサービス、在宅支援センターの管理者との意見交換、連携医療機関主催の現況会に参加している。全国グループホーム協議会に加入。リーダー研修で知り合った管理者が来訪し、職員を指導してくれるときもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者のこだわりや希望を聞き、それを重視した環境作りに努めている。なじみの関係を維持するために家族が居室に宿泊できるようにしている。利用者の要望を引き出すため職員を決めて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の役割や出来ることの維持を考慮しコミュニケーションをはかり喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が思いや希望が主張できる環境や、信頼関係づくりに努めている。意思表示の困難な利用者に対しては、自分が利用者の立場だと思いその目線で見守るようにしていると分かる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週カンファレンスを開催し十分検討したうえ家族の意見、要望を反映した介護計画書を作成している。作成後は家族に郵送し承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期、短期の期間を設けてモニタリング、評価を行い介護計画の見直しを行っている。状況変化時は現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民の介護相談を受ける中で緊急的なデイサービスの受け入れの必要性を感じ検討している。入退院の支援をしている。医療機関受診時には職員が付き添っているほか、24時間医療連携が可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように入居後すぐに連携病院にいき、付き添い、かかりつけ医として、医師、看護師に馴染んでもらうように努めている。体調変化時には往診してもらう他24時間対応可能である。毎週看護師の訪問を受けている。今までどおりのホームドクター受診の利用者に対しては、緊急時の対応の必要性から検診のみ連携病院で検診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時や重度化に際しての指針を文書化して説明し家族から同意書を得ている。病変事には医師、家族と再度話し合う場を設け、医師、家族、職員の役割の分担と指示系統の再認識をしている。ホームとしての介護体制、整備、対応を指針にまとめているほか、職員に対してはマニュアルも整備していて、職員もきちんと方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入るときは必ず利用者の了解を取っている。記録等書類関係は事務所にて保管している。ホーム便りの写真掲載に関しては同意を得ている。職員の話しかけは穏やかで利用者個人を重視した支援を行っていると感じた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を出来るだけ優先にしているが、体調や天候を考慮しながら一人ひとりのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で準備、盛り付け、配膳、後片付けを行っている。デザートでスイカがでたので利用者が初物を食べる時は東を向いて笑って食べると長生きできると教えている光景があった。ミキサー食の提供、食事に長時間かかる利用者に対する支援を行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴日、時間で入浴支援を行っている。1階の浴室は機械浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中から利用者同士の交流やゲームでライバル意識が生まれている。1階と2階の交流も盛んであり、カラオケ等を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ犬の散歩、買物や毎月の誕生会は外食に出かけている。天気の良い日はホームの中庭にてお茶や談笑を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は利用者の安全上から施錠しているが、昼間はモニター、センサーはもちろん鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出傾向が見られる利用者に対しては職員が見守り支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を開催し、利用者も参加して夜間想定等の避難訓練を実施している。避難方法を職員に周知してもらっている。2階の非常口は階段と滑り台にて避難が可能である。災害時非常持ち出し袋に乾パン等を整備している。	○	災害時に備え利用者に対する飲料水、缶詰、乾パン等の備蓄を整備することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をケース記録に残し、利用者の状態や力、習慣に応じた支援をしている。医師の指導の下カロリー制限の必要な利用者に対しての支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花のバラやカーネーション等が随所に置かれ入居者は季節を感じながら落ち着いた雰囲気の中共有空間で居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と家族の思いが詰まっている家具、テレビ、椅子、仏壇、たんす等の設置、家族写真等が持ち込まれ、その人らしい居室となり利用者が安心できる雰囲気である。		